

総合	5紙連携連載 リニアのいま	2面	東信	上信越道の再開へ点検
総合・国際	英下院 難民法案集中審議	4面	北信	長野市が被災相談窓口
スポーツ	日本S 3連勝でタカ王手	18・19面	中信	視覚障害者の苦労実感
スポーツ	B2信州 逆転で7連勝	19面	南信	創作料理のコンクール
社説	即位の儀式/自衛隊中東派遣	5面		地域ニュース24・25面

2019年(令和元年)
10月23日
水曜日

台風19号 関連記事
県・長野市 避難者に住宅 2面
下水処理 遠い本格復旧 3面
千曲 緊急避難場所浸水 27面
水位再上昇 緊張走る 28面
ふるさと また去らねば 29面
写真グラフィック 26面

信濃毎日新聞
1873年(明治6年)創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南条町 657番地
電話(026) 3380-8546
受付236-3000編集236-3111
販売236-3310広告236-3333
松本本社 〒390-8585
松本市中央 2丁目20番2号
電話(0263) 3390-8585
代表32-1200 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860
©信濃毎日新聞社2019年

ASB
Farm Your Vision
ペットボトルをつくる機械をつくる会社
日機エーエスピー機械株式会社

天気
最高気温 最低気温
飯山 19 12
野 12 13
長野 20 13
大町 18 19
松本 20 11
田 22 11
上 22 11
久 21 11
久 21 11
諏 19 11
訪 19 11
木 23 8
曾 23 8
伊 23 8
那 23 8
田 23 10
飯 23 10

陛下「国民に寄り添う」

正殿の儀即位を宣言



「即位正殿の儀」で玉座高御座から即位を宣言される天皇陛下。22日午後、宮内省の宮内庁御所。

天皇陛下が内外に即位を宣言する「即位正殿の儀」が22日午後、国事行為として皇居・宮殿で執り行われた。陛下は玉座「高御座」に立ち、「国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います」と述べられた。

天皇陛下のお言葉

先に、日本国憲法が天皇と国民の間に平和と繁栄を共に築くことを誓い、国民の幸せと世界の平和を願われ、いかなる時も国民と苦楽を共にされながら、その御心を「たごい」に即位正殿の儀「自身のお姿でお示しになってきたこと」に改めて深く思いを致し、「ここに、国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います」と述べられた。

台風被災陛下の思い酌み

祝賀パレード延期

台風19号の甚大な被害が日本全国に及ぶ中、「即位正殿の儀」が行われたが、祝賀パレードは天皇陛下のお気持ちに配慮し延期された。陛下は、被災された方々を心から哀悼するとともに、安否不明者が早く見つかることや、被災した人たちの生活が早く元に戻ることを心から願うという内容だった。

長野の被災地増水に警戒

浅川一時内水氾濫恐れ

台風20号から変わった低気圧の影響で、県内は22日にかけて大雨となった。県災害対策本部によれば、被災地では、同日午前一時から一時半にかけて、長野市の千曲川を越えた。長野市の千曲川の水位が一時上昇し、同日午後、市は避難指示を継続中の千曲川下流域の住民に改めて避難を呼び掛けた。長野地方気象台は、23日にかけても北信・中信で河川の増水に注意を呼び掛けている。



浅川と千曲川をつなぐ水門(中央)を閉め、ポンプ車などで浅川の水を千曲川に流した浅川排水機場。22日午後4時21分、小布施町吉島

排水ポンプ場が台風19号による支流の松川の水位上昇に伴い、浸水で故障し、町内から集まる雨水を排水できなくなっている。県道沿いを流れる千曲川は、浸水で故障し、町内から集まる雨水を排水できなくなっている。

下水処理 遠い本格復旧

焦点

長野 浸水のクリーンピア

周辺マンホールから下水

市町村も対策…雨が「壁」に

まとまった雨が降った22日、台風19号による浸水で機能不全に陥った長野市赤沼の下水処理場「クリーンピア千曲」の周辺でマンホールから下水があふれた。国が応急措置として非常時に認める塩素消毒のみの「簡易処理」で被災前の1日平均流入量の約5万立方メートルまで処理量が回復したが、雨のたびに汚水がマンホールからあふれる網渡りの状態が続き、市民生活などへの影響が長期化するのを避けられない見通しだ。

(島田周) 立松敏也
【1面参照】

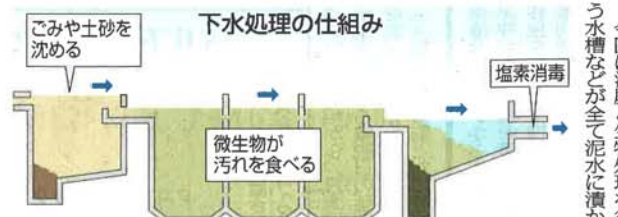
長野市豊野町豊野の市営中団地近くに住む男性(68)は22日早朝、団地周辺で水があふれるマンホールを見た。「この状況だから我慢が肝心だと思いが、なるべく早く臭いを抑えてほしい」。市や県によると、同処理場に近づく豊野地区などで雨が降った19日以降、マンホールから下水があふれている。県生活排水課によると、同処理場が機能停止していた間は、汚水を簡易処理し千曲川へ放流する作業が続く。クリーンピア千曲は22日午後2時40分、長野市赤沼

クリーンピア千曲が元の処理能力を取り戻すまで「1〜2年かかる」とする。理由は処理の仕組みにある。ごみや土砂を沈めて取り除く「沈殿」、次に微生物が汚れを食べる「生物処理」、最後に塩素消毒をして放流する「が下水処理の大まかな流れだ。今回は沈殿と生物処理を行う水槽などが全て泥水に漬か

浄化「心臓部」回復に1〜2年

一般的に川沿いの低地に造られることが多い。処理地域全域から汚水が自然に流れてくることから、処理済みの水を川に放流できるからだ。その一方、河川氾濫の際は被害を受けやすい。クリーンピア千曲周辺の一番は今回、千曲川の決壊で広く浸水した長野市北東部の中でも解消するまで長い時間がかかった。ただ、今回の規模の浸水は「想定しておらず、被害を防ぐ対策もなかった」。県生活排水課は「千曲川の増水時、処理済みの水が施設内に逆流しないようにするポンプを備え、敷地も周囲の農地などより1メートルかさ上げされている。だが、電源設備は管理棟1階にあり、防水扉も備えていないため水に漬かって破損。非常用の発電機もなく、被災後に調達した。クリーンピア千曲は1991年に完成。同課は「建設当

汚れ食べる微生物含む「活性汚泥」流失



同様の被害は、県内外の他の下水処理場でも起こる可能性がある。同課や長野市によると、こうした施設は

佐久の施設も復旧めど立たず

下水処理を巡っては、佐久市でも塩素消毒のみの「簡易処理」を行い、千曲川に放流している。市内では最大の下水処理施設「下水道管理センター」が千曲川支流の清津川堤防決壊で浸水し、機能を停止。仮設ポンプで排水する



須坂市は千曲川沿いの公民館などに簡易トイレ32台を設置し、処理地域内の2小学校にも15台を配置した。高山村は後援や小中学校などに簡易トイレ計76台を設置し、小布施町は全戸にチラシを配布して節水を呼び掛けている。クリーンピア千曲では22日も、県内外の民間業者の作業員らが復旧作業に追われた。県は25日にも、汚水を処理施設に引き上げる仮設ポンプを大型化し、汚水の水位を下げると考えた。だが、雨が降れば作業はその分遅れ、しばらくは「いちごっこ」が続く見通し。長野市上下水道局の担当者は「やるだけのこと。やっても、クリーンピア千曲の復旧を待つしかない」と漏らした。

権兵衛トンネルと東御市道 国代行での復旧 知事、自民に要望 阿部守一知事は22日、自民党県連が長野市内で開いた台風19号の災害対策本部会議に出席し、上伊那郡南箕輪村の国道361号権兵衛トンネル入り口付近の土砂崩落、東御市のしなの鉄道にかかる市道の復旧について、国の権限代行で復旧することを求めた。権兵衛トンネルは上伊那と

木曾地方を結ぶ主要ルート。橋台近くの土砂が崩れ落ち、橋や道路が沈下する危険があり、20日に通行止めになった。また、東御市道はしなの鉄道の線路をまたぐ橋の土台が台風の影響で損傷し、上田(上田市)―田中(東御市)間で運休する原因になっている。阿部知事は「国土交通省、

時のごとく詳しく分らないが、1983(昭和58)年にあった(近くの)浅川の洪水氾濫程度の浸水は想定して造ったのかもしれない」と説明する。95年の阪神大震災などを受け、地震災害に備えた施設の耐震補強は実施したが、「もっと老朽化し、建て替えや改修が必要な施設は他にもたくさんある中、何十年も起っていない千曲川の破壊まで想定した対策までは手が回らなかった」とみる。

国土交通省は「国土強靱化」の一環で、2018年度から3年間に全国の下水道施設で非常用発電機導入などを支援しているが、県生活排水課の清水修一課長は「そもそも、ここまで泥水が流入した場合、防水扉などで被害が軽減できたのだろうか」と話す。クリーンピア千曲を運営する県千曲川流域下水道事務所の小林功所長は「下水処理場は同様の被害に遭うことを前提に、復旧作業しやすい設計にすることも必要ではないか」としている。

千曲 緊急避難場所が浸水

市更埴文化会館 台風19号の大雨で13日未明

地下施設被害で停電・トイレも使えず

浸水想定区域に立地 対策検討へ

台風19号の大雨で13日未明、千曲市指定の緊急避難場所の一つ市更埴文化会館（千曲市杭瀬下）の地下にある機械設備が浸水して停電やトイレが使えないなどの障害が発生、当時避難していた48世帯156人が少なくとも朝まで不自由を強いられていたことが22日、分かった。千曲川流域の同市では指定緊急避難場所の多くが市洪水ハザードマップの「浸水想定区域」にあり、市は緊急避難場所の防水性の向上などを検討する方針だ。

市は12日、気象庁の大雨特別警報を受け、同日午後5時59分に市杭瀬下の住民らを対象に、市更埴文化会館を緊急避難場所として開放。市教委文化課によると、2階部分から住民を受け入れ、入りきらなかった30人ほどは1階の小ホールに避難したという。会館は千曲川から東方に直線約400メートルの地点にある。千曲川の増水で会館1階は冠水し、同課は同午後11時ごろ、1階の避難者を2階へ誘導した。

水。地下の機械空調室などは水没し、停電が発生。トイレの利用もできなくなった。就寝帯だったこともあり住民から大きな苦情は出なかったが、朝には希望した120人ほどが、浸水を免れた旧更埴庁舎保健センターに移動した。

荒井茂夫・危機管理防災課長は「更埴文化会館への避難誘導は適切ではなかったかもしれないが、避難できる施設は少なく苦肉の策だった」と緊急避難場所は災害時に住民が緊急的に逃れる施設や場所、災害対策基本法に基づき市町村が指定する。一方、同市では市更埴文化会館を含め、市洪水ハザードマップの浸水想定区域にある緊急避難場所が複数あるのが実情。浸水による電源の喪失といった事態はこれまで十分想定されておらず、市は今回の問題を検証する考えだ。



浸水した千曲市更埴文化会館1階 13日午前2時45分すぎ

ボランティア用トイレ 足りない テント型 長野市が増設進める

千曲川氾濫の被災地を支援しようと長野市を訪れる災害ボランティアのトイレの確保が課題になっている。被害が大きかった長沼地区では数が足りないとの声が上がリ、市が増設を進めている。

市が主に設けている仮設トイレはテント型。携帯トイレで用を足し、1回ごとに外の袋に捨てる方式。移動や衛生面で機能性が高く、1000台程度を保有し

ていることから、長沼地区にはこれまでに約40台設置したという。

災害ボランティアセンターを運営する市社会福祉協議会によると、ボランティアから仮設トイレが足りないとの声が複数寄せられているという。長沼地区には50台以上の仮設トイレがあるが、21日に市内で活動したボランティア約1700人のうち同地区に入ったのは約700人。担当

者は「地区は広く、近くにない場合もあったのではないかとする。設置が容易なテント型簡易トイレがどこに何台必要か把握したいとする。

トイレの設置場所の情報提供を求める声も。被災後、自宅のトイレを貸したことがあるという同市赤沼の^{もひな}大日方正利さん(43)は「仮設トイレがどこに設置されているか分からない。案内があるとありがたい」と話す。



長野市穂保に設置されたテント型簡易トイレ